ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業

第16期 研修生報告書

TRAINEE REPORT

The 16th
Duskin Leadership
Training Program in Japan
2014~2015

期間
2014年9月～
2015年6月

あいのわ
ダスキン愛の輪基金

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業とは

国連・アジア太平洋社会経済委員会が決議した「アジア太平洋障害者の10年」の中間点にあたる1999年、財団ではその要請に応えて、アジア・太平洋地域の障がいのある若者を日本に招へいし、約10ヵ月間、日本の障がい者福祉や日本の文化を学んでいただき、帰国後は母国の障害者リーダーとして活躍していただこうという人材育成事業です。

2015年までに、26の国や地域から115名の研修生がこのプログラムで研修し、母国で障がい者リーダーとして活躍しています。

この冊子はアジア第16期生の研修報告書をまとめさせていただいたものです。日本語・日本手話研修に始まり、各人の研修目的に合った機関や団体での充実した個別研修、そして一生の思い出となるボランティア家庭でのお正月ホームステイやスキー研修と、6名のアジア研修生が、何を学び、何を感じたかが綴られています。ぜひご一読ください。

研修を担当された公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会、お世話になった機関や団体の皆様、ホームステイを引き受けてくださった各地のボランティアの皆様、愛の輪会員の皆様のお力添えに改めて感謝申し上げますとともに、今後もダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業に格別のご理解とお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業
実行委員会　委員（敬称略）

寺島　彰	浦和大学　総合福祉学部長　教授
山口　和彦	NPO法人　居宅移動支援事務所 TOMO 事務局長
河村　宏	NPO法人 支援技術機構 副理事長
高嶺　豊	NPO法人 エンパワーメント沖縄 理事長
小倉　國夫	アジア障害者支援プロジェクト 事務局長
宮本　一郎	（一財）全日本聾唖連盟 アジア太平洋地域事務局担当
稲　淳子	精神福祉士
野村　美佐子	（公財）日本障害者リハビリテーション協会 情報センター長
村瀬　道雄	横浜訓盲学院　教頭

（任期：平成27年4月1日～平成29年3月31日）

C O N T E N T S

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業とは　2

全体研修日程　2

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員（敬称略）　2

ディナ・ラティフ　3

ジョンハン・ウー　7

ウムール・ヘール　11

ディルショッド・ノルムロドフ　15

ハビブラー・ラフマン・モラー　18

ヴィリヤ・チャンチャルン　21

全体研修日程　Training Schedule

2014年	
9月7日（日）・9月8日（月）	来日
9月9日（火）	開講式
9月10日（水）～9月18日（水）	オリエンテーション
9月11日（木）～12月12日（金）	日本語・手話研修
12月7日(日)	日本語能力試験
12月11日（木）	日本語・手話成果発表会
12月15日（月）～12月25日（木）	集団研修①
12月26日（金）～2015年1月4日（日）	ホームステイ
2015年	
1月13日（火）～5月22日（金）	個別研修
1月23日（金）～1月26日（月）	スキー研修
1月6日（火）～9日（金）、 1月27日（火）～30日（金）	集団研修②
1月30日（金）	研修生交流会
4月27日（月）	ダスキン新人研修会
4月28日（火）	集団研修③
5月18日（月）～6月22日（月）	集団研修④
6月6日（土）	成果発表会
6月24日（水）	修了式
6月25日（木）～26日（金）	帰国

日本で学んだことをモルディブのろう者のために役立てたい

Dheena LATHEEF

ディナ・ラティフ

モルディブ（カーフ環礁）出身　21歳　聴覚障がい（ろう）

研修希望内容

1 日本のろう運動の歴史と変遷盲ろう者への支援

2 モルディブのろう者が抱える問題の解決策の模索

自己紹介

私はディナです。モルディブろう協会の会員です。私はモルディブの南方に位置する島の出身ですが、子どもの頃、その島にいるろう者は私だけでした。地域の小学校に通いましたが、そこではろう児に合わせた指導は行われておらず、先生の話していることが分かりませんでした。数年後、首都マーレにある学校に転校しましたが、そこでは教師も学生も手話を使っていて、授業がよく分かるようになりました。私は大学進学を夢見ていましたが、ろう者に高等レベルの教育を提供する学校がないことを知りました。ろう者には進学以外にもたくさんの困難があり、それらを解決するために、ろう協会へ入会することを決意しました。しかし、何をすればろう者のおかれた状況を変えられるのか私には分かりませんでした。そこで、この研修に応募し、日本で学びたいと考えました。

日本に来る前は、勉強についていけないのではないかと心配でしたが、日本人はとても親切で、色々なサポートをしてくれました。

忘れられない思い出

ホームステイ

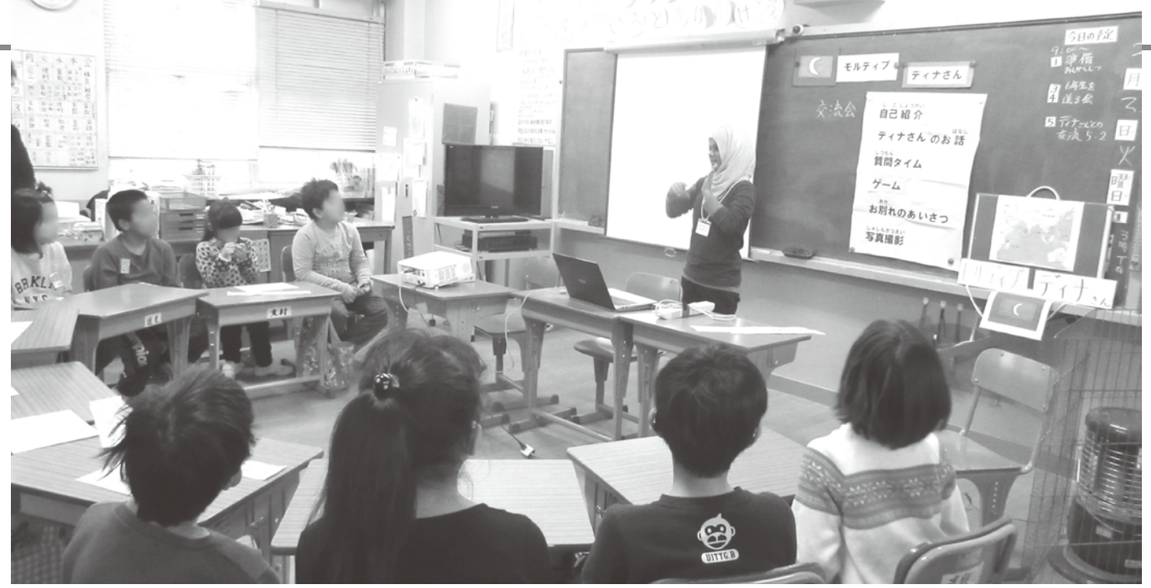
福岡の吉野幸代さんのお宅でホームステイをしました。日本手話で会話ができるようになっていたので、吉野さんのお父さんは私と話すのが楽しいと言ってくれました。温かい国から来た私にとって、冬の寒さはこたえましたが、お手伝いをしたり、モルディブ料理を振る舞ったりして、楽しく過ごしました。いろいろなところにも連れて行ってもらいましたし、着物も着せていただきました。

スキー研修

新潟でスキー研修をしました。モルディブには雪が降らないので、雪を見るのも触るのも初めてで、不思議な気持ちがしました。初日はうまく滑れず、何度も転びましたが、2日目は一人でスキーができるようになりました。スキー研修を楽しみにしていたので、2日間と言わず、もっと体験したかったです。

個別研修

モルディブには1192の島がありますが、首都でさえ3名の手話通訳者しかいません。手話通訳者の人数が絶対的に不足しているのです。そこで、手話通訳者の養成について学びました。手話指導のために必要となる手話の研究や分析についても学び、手話の文法的要素、手話と音声言語との言語体系の違いなどについて教わりました。手話を指導する際、ナチュラルアプローチという手法を使っていました。これは子どもが言語を自然に身につけるように、学習者に手話を習得させるという教授法です。手話が全くで



きなかった人がこの教授法を用いて手話を学んだ結果、2～3年で通訳者レベルにまで手話が上達することを知りました。ナチュラルアプローチを用いる時に大切なのは、手話のインプットと会話であり、それを繰り返し行うことです。この教授法を用いて、モルディブでも手話通訳者の養成をしたいと考えています。

女性ろう者が抱える問題と解決方法

モルディブでは女性ろう者が聞こえる男性に強姦されるケースが多くみられます。また、聞こえる男性と結婚したものの家庭内暴力を受けているろう女性もいます。しかし、誰にも相談できず、一人で悩んでいることが多いです。また、聞こえる両親のもとに生まれたろう児が、親からの愛情を受けられず、育児放棄された結果、非行に走るというケースも見られます。このような問題を解決するためにはどうしたらいいか、長崎や福岡でろう女性のリーダーに話を聞きました。特に長崎では、本村さんのお宅にホームステイしていたので、夜遅くまで意見交換をしながら、ろう女性の問題について考えました。その中で感じたことは、ろう女性が安心して話ができる環境を作ることの大切さです。モルディブに戻ったら、ろう女性の居場所作りをしたいです。そこで情報交換をしたり、一人ひとりの話をゆっくり聞いたりできるような場所にしたいです。

本村さんはいつも優しく私のことを気遣ってくれ、まるでお母さんのようでした。一方で、ろう女性のリーダーとして仕事をする姿は、私のロールモデルでもありました。

島々で生活するろう者の問題

長崎は日本で一番島が多い県です。島で暮らすろう者の実態を知りたいと思い、対馬や五島列島に連れて行ってもらいました。モルディブもそうですが、日本でも島には手話通訳者がいないので、聴者とのコミュニケーションがうまくいかないという問題があることが分かりました。通訳者がいないこともあり、島のろう者は情報が不足しています。

対馬では、島に暮らすろう者と実際に会って、生活上での困難について話を聞きました。聞き取り調査の結果は報告書にまとめ、行政交渉の材料にすることも学びました。

五島列島では、地元ろう者の集まりに参加し、皆さんの生い立ちとこれまでどのようなご苦労があったかを伺うことができました。

ろう教育

いくつかのろう学校を見学しましたが、先生方はろう児の特性を熟知し、様々な工夫を行っていました。例えば、乳幼児クラスでは、ろう児が自然に手話を身につけられるように、0歳の子どもにも手話で話しかけを行っていました。また、クラス授業を行う際は、先生方は子どもと目線を合わせてから話をするようにしていました。授業は基礎から少しずつレベルを上げていくのですが、ろう児がわかるまで何度も繰り返して教えていました。これらの方法を用いることで学力が向上し、日本には大学進学を果たすろう者がたくさんいます。

モルディブでは、聞こえる子どもと一緒にろう児が学んでいますが、授業についていけず、学校を途中で辞めてしまうろう児が多いです。学校を中退すると、求職の際に不利になります。ですから、モルディブでは仕事に就けないろう者がたくさんいますし、仕事に就けたとしても低賃金で働いています。

情報技術を活かした授業も印象的でした。ろう児は手元の本を読みながら、先生のお話を聞くことは難しいですし、先生にとっても本を読んでいるろう児の顔を上げさせることは容易ではありません。そこで、教科書を大きな画面に映し出していました。このような機器があれば、ろう児は教科書から顔を上げることができ、教科書の内容を確認しながら先生の手話を見ることができます。

私の変化

日本に来るまでは、ろう者以外の障がいのある人に対するサポートについて考えたことがありませんでした。いつもろう者のことだけを考えていました。しかし、日本で他の障がいのある人たちと一緒に過ごした経験から、帰国後はろう者だけでなく、色々な障がいのある人たちと交流していきたいと思うようになりました。また、私は引っ込み思案なところがありましたが、今は積極的な性格になり、遠慮せず何でも質問できるようになりました。

帰国後の目標

帰国後は、以下の4つの目標を達成するために、力を注ぎたいと思います。

1. 手話通訳者の養成

医療・教育・労働などあらゆる場面において、ろう者は手話通訳者を必要とします。手話通訳者の数を増やすことは、ろう者の社会進出に繋がります。

2. モルディブ手話の開発

現行のモルディブ手話辞典には、手話単語がわずか300語しか収録されていません。今後、モルディブ手話の分析及び開発を進め、3000語収録を目標に新しい手話辞典の作成を行います。

3. ろう女性のエンパワメント

ろう女性が集い、楽しく語らえる場所を作ります。モルディブのろう女性は、家に引きこもりがちで、悩みを一人で抱え込んでしまうことが多いです。まずは、気軽に立ち寄れ、楽しくおしゃべりができる場所を提供し、女性たちが安心して心が開けるようになったら、彼女たちの悩みを引き出し、共にその解決策を考えます。

4. ろう教育の発展

モルディブにはろう学校がなく、ろう者が大学に進学することも叶いません。教育をきちんと受けていないせいで、就労機会が得られないろう者も多いです。その状況を打開するには、ろう教育のあり方を変えるしかありません。これは、ろう児の未来のために、必ず取り組まねばならない課題です。

お礼の言葉

アジア第16期生は、私にとって家族のような存在です。離れ離れになるのは寂しいですが、帰国後もずっと友だちでいたいです。

最後になりましたが、ダスキン愛の輪基金の皆さん、日本障害者リハビリテーション協会の皆さん、お世話になった全ての人に心からお礼を言いたいです。ありがとうございました。

個別研修日程・研修場所 Individual Training Schedule

2015年

1月13日(火)～16日(金)、21日(水)	かがやきパソコンスクール
1月19日(月)～20日(火)	一般財団法人　全日本ろうあ連盟
2月3日(火)～19日(木)	特定非営利活動法人 日本ASL協会
2月23日(月)～2月25日(金)	人間文化研究機構 国立民族学博物館
3月1日(日)、5日(木)、6日(金)全3日間	公益社団法人 大阪聴力障害者協会
3月2日(月)～4日(水)	大阪市立聴覚特別支援学校
3月9日(月)～4月5日(日)	長崎県聴覚障害者情報センター
4月7日(火)～4月11日(土)	社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会
4月14日(火)～5月12日(火) ※但し、4月27日(月)、28日(火)は除く	国立障害者リハビリテーションセンター
5月14日(木)～15日(金)	国立大学法人 筑波技術大学

研修生へのメッセージ　Message to Trainee

地元の仲間たちと力を合わせて頑張って！

ディナ・ラティフさん、お元気ですか？

ディナさん一緒に過ごした1ヵ月間は、あっという間でした。最初は年齢差、生活習慣、言葉、手話などの違いで、不安や心配で、1ヵ月は長いなぁ～！と感じたものです。

でも、明るく、チャーミングで気さくなディナさんは、どこに行ってもたちまち人気者。一緒に過ごす内に家族のような愛情が湧き、朝が苦手なディナさんのために朝食を作る、楽しみと幸せを感じたのでした。

ある時は、帰りが遅い本村に郷土料理を食べさせたいがために、一生懸命夕食を作って待ってくれましたね。オイル入りご飯、辛くて固いマグロの角煮・・・どれも初めて口にするものでしたが、空腹には何とも言えない美味しさでした。

ディナさん「モルディブのろう女性、ろう児のために、頑張りたい！手話通訳者を育てたい！」と、毎晩、時間が経つのも忘れ熱く語り合いましたね。

ディナさんの自国ろうあ女性、ろう児への想いはきっと叶うでしょう。アシュファッグさん（アジア第14期生）や地元の仲間たちと一緒に力を合せて頑張ってください。

長崎から応援しています。いつの日か、再会できる日まで、ごきげんよう！

長崎県聴覚障害者情報センター
所長　本村　順子

研修生へのメッセージ　Message to Trainee

親愛なるディナさんへ

モルディブへ帰ってから、もう2ヵ月経ちました。

ディナさん、日本でたくさん学び、たくさんの出会いはいかがでしたか。あれからどうしていますか？日本でたくさん学び得たことをモルディブで活躍して頑張っていますか。ディナさんのことだから、モルディブろう協会やモルディブにいるろう者が豊かな暮らしになれるよう、活躍されている事でしょうね。

ディナさんと一緒に過ごした日々は今でも脳裏に焼きついています。正月に中村会長の家にて、日本文化の着物を着たディナさんの姿はうっとりするほど、本当に綺麗でした。また、いつもは日本の食べ物を口に入れるのに、あまりいい顔をしないのに、キャラメルを口にした時の表情がパッと明るく、美味しいー。もっと欲しいー。と言っていたディナさん。（笑）あれは、確かにインパクトがあって、今でも思い浮かべてしまい、忘れられない私。（笑）

他にも田んぼを耕す体験、竹馬に乗る体験などいっぱいしましたね。モルディブ料理を食べられて、本当に美味しくて、これがモルディブなんだと感じ、ディナさんが生まれ育っているモルディブへ早く行きたいと思っています。ディナさん、たくさん得たものを糧に、今よりエンパワーメントされ、さらなる飛躍を目指し、頑張ってくださいね。

再会できる日を楽しみにして、日本から応援しています。

ホストファミリー
吉野　幸代

研修で得た知識をいかして台湾のろう者コミュニティの発展に尽したい

Jhong-Han WU

呉宗翰　ジョンハン・ウー

台湾（台北）出身　26歳　聴覚障がい（難聴）

研修希望内容

1 手話

2 障がい者のサポート

人生の転機

台湾出身のジョンハン・ウーです。私は難聴者です。4人家族で、両親と妹1人がいます。

社会人となり、政府の契約職員として2年ぐらい働きました。その後、約1年半、オーストラリアとアイルランドでワーキングホリデーをして、色々なところへ旅行したり、外国人と交流したりしました。その頃の私は、障がい者に関する知識はあまりなかったです。2009年台北デフリンピックのオリエンテーリング選手だったので、ろう者のことは少しだけ知っていましたが、国際手話も台湾手話も全然分かりませんでした。聴者文化の中で育った私のコミュニケーション手段や考え方は聴者と同じでした。その後、台湾のろう協会で働く聴者の友達から勧められ、この研修に応募しました。障がいのある人に関わる研修を本格的に受ける…これが私の人生の転機になりました。

日本語と日本手話

来日前、1ヵ月ほど日本語の塾で勉強したので、日本で手話を学ぶ必要はないと考えていましたが、それは甘い考えでした。聴者との会話では日本語を聞いてもよく分かりませんし、手話は全く理解できませんでした。私は大きな挫折感を味わいました。

3ヵ月間、日本語の先生たちは大切な単語、文法や作文などを教えてくれました。手話の授業は楽しいだけでなく、重要な知識も得られる内容でした。手話に興味を持ち始めた私は、手話で交流する機会が増えました。日本のろう者や通訳者と手話で通じ合えることが、本当に楽しかったです。

ホームステイ

年末年始には青森県の古川さんのお宅でホームステイをするという素晴らしい経験をしました。聴者の世界で生きてきた私にとって、ろう者の家族と一緒に過ごすのは初めての経験です。古川さんご一家も私も、コミュニケーション面が不安でしたが、手話が問題なく通じ、私たちの心配は杞憂に終わりました。

ホームステイ期間、家族と一緒に料理を作ったり、青森県のきれいな雪景色と観光名所に連れて行ってもらったりしました。新年には家族と友達と一緒に、日本のお正月を味わいました。古川さんのお嬢さんは手話とスケートを私に教えてくれ、まるで兄妹のように一緒に遊びました。最後に、古川さんからプレゼントと手作りアルバムをいただきました。私は本当に感動しました。

ホームステイでいっぱい良い思い出が

出来ました。家族は本当に親切で友達のようでした。私はホームステイを忘れることはできません。古川さんご一家と会えて、とても幸せでした。

個別研修

ななふく苑

ななふく苑は高齢のろう者、中途失聴者、難聴者が聞こえなくても安心して暮らせる老人ホームです。その目的は、①コミュニケーションが自由にとれる施設であること、②ろう者が地域貢献できる入居施設であること、です。自由に話ができる環境を整備することが、高齢ろう者にとって大切だという考え方はとても重要です。

台湾と日本とを比較してみると、台湾には一般的な老人ホームや高齢者へのサービスはたくさんありますが、高齢ろう者の養護老人ホームは少ししかなく、発展途上という印象です。高齢ろう者を対象とした施設はとても大切です。高齢ろう者は、一般的な老人ホームに入居しても、コミュニケーションの問題があって、他の老人たちと一緒に話すのが難しく、それは老化を加速させる要因になります。今後、高齢化がますます進むので、これは大切な課題です。

プレゼンテーション研修

日本ＡＳＬ協会で初めて手話によるプレゼンテーション技法を学びました。学生の時、発表や講演は全て音声でおこなっていました。手話の講演の技法はそれとは全く異なっていました。例えば、立ち姿、講演に適した手話表現、手話を表わす位置や顔の表情などを習いました。これはとても重要な知識です。最後に、一時間の手話スピーチを実施しました。参加者は私のプレゼンテーションを評価しながら聞いてくださいました。そのアンケート結果をもとに反省を行うなど、講演内容を改善し続ける方法についても学びました。その後の研修で講演を依頼されることがありましたが、この研修の経験があったので自信を持って臨むことができました。

すまいる（ＮＰＯ法人視聴覚二重障害者福祉センター）

台湾にいた時から、盲ろう者という言葉は知っていましたが、実際に接する機会はありませんでした。すまいるの研修で、盲ろう者について知り、その支援の方法も理解できました。また、触手話を用いることで、盲ろう者との交流が生まれました。

盲ろう者の通訳介助については、実際の支援現場を見て、学びました。盲ろう者は視覚と聴覚に障がいがあるので、触手話と指点字による通訳が有効です。しかし、盲ろう者の通訳介助はとても難しいです。例えば、盲ろう者が博物館を見学する際、展示品の形状などを触手話で通訳してもらい、自分でイメージを膨らませます。そのイメージと現物が一致するような高い通訳技術が通訳介助者には要求されます。

盲ろう者の皆さんの手作り作品と和太鼓部の活動を見た時は驚きました。皆さんの作業は丁寧で、色鮮やかな素敵な作品を作ります。皆さんが和太鼓演奏をすると聞いた時は半信半疑でしたが、後ろにいる聴者が盲ろう者の肩に触れるのを合図に太鼓を叩くという方法で演奏していました。皆さんの演奏は素晴らしかったです。盲ろう者の伴走練習も体験させてもらいました。伴走の技術と注意事項を教えていただいたので、台湾でも盲ろう者の伴走ができると思います。

すまいるの皆さんは、とても優しくて、個性的で、積極的でした。とても面白くて、何も知らない私に、触手話や盲ろう者の文化や盲ろう者に関連する情報を丁寧に教えてくれました。そして、すまいるの皆さんは、大変努力家で、勇気があります。皆さんは私に人生についても教えました。私がすまいるで学んだ最も大切なことは、コミュニケーションの重要性です。盲ろう者にとって、自分の感情や考え方を伝えるのは難しいことです。そこで大切な役割を担うのが、通訳介助者です。まず、両者の間には信頼関係の構築が肝要です。その後、盲ろう者は通訳介助者を通して、情報を得ていき、知る権利を実現していきます。このような過程を経て発せられる盲ろう者の声を人々は無視できるはずがありません。そして、盲ろう者の周りに双方向のコミュニケーションが生まれるのです。

筑波技術大学

私が大学生の時、クラスメートは全て聴者で、聴者文化の中で学んできたといえます。筑波技術大学で初めて聴覚障がいのある大学生と一緒に勉強する経験を得ました。また、大杉先生から、聴覚障がい関連の理論、手話言語学、手話調査法なども教わりました。

自分を変える

私には聴覚障がいがありますが、これまで聴者の世界しか知らなかった私には、自分がろう者であるという意識はありませんでした。しかし、日本で研修して、聞こえない自分を受容できました。ろう者や障がい者のコミュニティで体験談を聞き、多くの学びを得ました。そして何よりも手話を習得し、ろう文化を理解したことが、この大きな変化をもたらしました。私にとって、聴者文化とろう文化はどちらも大切です。障がいのある人に対して平等であり、お互いを尊重すること、何よりも大切なのは共感し合うことだと思います。

帰国後の目標

私は3つの段階に分けて、目標を立てました。

短期：台湾手話の習得、第8回アジア太平洋ろう者スポーツ大会の手伝い。日本手話はできるようになりましたが、台湾の手話はまだ話せません。まずは台湾手話を学びます。その後、今年10月に台湾で実施されるスポーツ大会において、日本手話と台湾手話を用いて、日本代表チームのサポートを行いたいです。

中期：ろう協会のいろいろな活動に関わっていきたいです。そこで経験を積んだ後、手話通訳者養成にも関わりたいです。手話通訳者の数が増えれば、ろう者の雇用促進につながり、ろう者が仕事上で経験している差別を解消できると思います。

長期：アジア太平洋地域、あるいは世界的なろう者の会議に参加し、台湾のろう者に国際的な情報を伝えたいです。

最後に

日本での10ヵ月の研修は、私にとって大きな転機になりました。幅広い領域の知識を学び、障がい者に対する理解と共感の心も学びました。これは私が過去に経験できなかったことです。帰国後はろう者コミュニティの発展に力を尽くします。ダスキン愛の輪基金、日本障害者リハビリテーション協会、戸山サンライズ、日本語、日本手話の先生方、ホストファミリーの古川さんご一家、研修先の皆さま、本当にお世話になりました。10ヵ月間、互いに助け合った研修生の仲間にも感謝しています。ありがとうございました。

個別研修日程・研修場所　Individual Training Schedule

2015年

1月15日（火）～18日（日）	日本デフオリエンテーリング協会
3月3日（火）～18日（水）	特定非営利活動法人 日本ASL協会
3月24日（火）～5月5日（木） ※但し、4月27日（月）、28日（火）は除く	特定非営利活動法人 視聴覚二重障害者福祉センター すまいる
5月8日（金）	社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会 東京手話通訳等派遣センター
5月11日（月）～5月15日（金）	国立大学法人 筑波技術大学

研修生へのメッセージ　Message to Trainee

帰国後の活躍を期待しています

※愛称マイケルさん

母国で手話を学ばなかったマイケルさん。ろう研修生たちは、来日して3ヵ月間の日本手話や日本語の研修が義務付けられていますが、それが終われば勉強も終わりと思うことなく、マイケルさんは自分の手話が十分ではないことを自覚し、語学研修終了後も、一人で黙々と学習を続けておられました。NHKの手話番組を見たり、インターネットの手話動画を見たり、人一倍努力し続けておられました。母国で学ばなかった手話を異国で学ぶ、それは彼自身にも非常に葛藤があったのではないでしょうか。その葛藤を超えて、真摯に研修に取り組む姿勢には大変感銘を受けました。

最終講演でマイケルさんは、「聴者の文化もろう者の文化もどちらも大切」、そして「平等、尊重、共感」とコミュニケーションの大切さを訴えていました。手話という言語を学びながら自分のアイデンティティを模索し、コミュニケーションの幅を広げていったマイケルさんだから言える言葉だと思います。素直で努力家、さわやかな印象のマイケルさん。帰国後は、難聴、ろう、健聴という枠を超えて活躍の幅を広げていかれることでしょう。台湾は日本とそう遠くない国、再会の日を楽しみにしています。

NPO法人　日本ASL協会
事務局長　高草　久美子

研修生へのメッセージ　Message to Trainee

「？？？？」が「！！！！」へ

※愛称マイケルさん

「？？？？」これは、来日した頃のマイケルさんにお会いした時の印象です。なんで台湾の手話が出来ないのだろう？日本で何を学びたいのだろう？耳のきこえない自身のことをどのように思っているのだろう？同じ研修仲間とどうやってコミュニケーションを取っていくのだろう？

しかし、約半年の研修を終えたマイケルさんを筑波技術大学にお迎えした時、「？？？？」はすべてきれいに消えてしまっていて、それ以上に「！！！！」と印象が180度変わりました。日本の手話が流暢に出来ている！耳のきこえない自分をしっかりと見つめて分析出来ている！日本のろう者コミュニティが成し遂げてきた成果とこれからの課題をかなり理解している！たくさんの漢字を共有していることでお互いの考えをスムーズに伝えられる！

マイケルさんはこの日本研修で生まれ変わったのでしょう。新しい自分だけでなく、過去の自分や見守ってくれている人々をも大切にしていく姿勢も見られることを大変嬉しく思います。この経験を活かして、帰国後は台湾の手話を覚えて、台湾のろう者との交流を深める中で、ろう者コミュニティの課題の解決に真摯に取り組んでくださることを期待しています。

国立大学法人　筑波技術大学　障害者高等教育研究支援センター
教授　大杉 豊

私の夢は国連史上初の女性事務総長になること！

Ummul KHER

ウムール・ヘール

インド（デリー）出身　26歳　肢体不自由（電動車いす）

研修希望内容

1. 障がい者の権利（特に、女性障がい者の活動）
2. 手話及び点字
3. 農村地域で暮らす障がい者のための活動

1. 日本と私の出会い

日本：朝日の国

最初に、日本と私の出会いについてお話しします。それは私が7歳の時でした。私は子供の雑誌で「日本：朝日の国」という名前の作文を読みました。大変印象深い作文だったので、日本は私の一番好きな国になりました。それから、日本の歴史や文化について情報を集め、いつか日本に行ってみたいと思うようになりました。ダスキンの研修生に選ばれて、その夢が叶いました。

2. スキー

障がい者の冒険=精神の勝利

日本での研修は全てが大切な意味を持っていました。例えば、スキー研修の目的は２日間の遊びではありません。スキーを通して、障がいを持っている人たちも冒険することができると私たちは学びました。いろいろな国に住んでいる多くの障がい者は、自分の体のことを気遣いながら生活しています。スキーのような冒険は、その人たちにとって夢のようなことです。日本に来る前、私はスキーをしたくなかったです。私の障がいは骨が折れやすいので、とても危ないと思ったからです。しかし、ダスキンの先輩の中には私と同じ障がいの人もいて、スキーをしていました。それを知って、私も挑戦したいと思いました。障がい者も高くて、するする滑る雪の山をバイスキーに乗って征服することができます。スキー研修の時、私たちは「人間の精神の勝利」を感じました。

3. 日本で学んだこと

自立生活

私は自立生活について学びたいと心から思っていました。私は首都のニューデリーに住んでいましたが、自立生活に関する情報は聞いたことがありませんでした。ですから、自立生活センターでたくさん勉強しました。「自己選択、自己決定、自己責任」は自立生活運動の中で一番大事なコンセプトです。しかし、今でも多くの開発途上国では、障がい者は年をとっても家族と一緒に暮らさなければならないと考えられています。それらの国では、政府からの年金がなく、バリアフリーもなく、介助者の制度もないのが現況です。しかし、将来インドの障がい者も自立生活が出来ると私は信じています。日本でいくつかの自立生活センターを訪問しましたが、同じ目標を持ちながらも、それぞれの活動方法は違っていました。そのことは、私達も自分の国の中で、障がい者のニーズとリソースにあった自立生活センターを創ることができるという希望を与えてくれました。

ピアカウンセリング

私は大学で心理学を勉強しました。色々なカウンセリングを勉強しましたが、ピアカウンセリング（以下、ピアカンとする）は名前さえ知りませんでした。自立生活センターリングリングでは、色々な障がい者、例えば知的障がい者や重度障がい者のための一人ひとりにあったピアカンを勉強しました。障がい者のエンパワーメントのためにピアカンはとても大切だと思います。

ピアカンの目的は3つあります。

自己信頼の回復：簡単に言うと、自分を好きになりましょうということです。なぜなら障がいのある人は、色々な経験を通して、自分のことが大嫌いになったり、障がい者としてのアイデンティティが持てなくなったりすることがあります。社会を変える活動をするために、自己受容はとても大切です。

人間関係の再構築：これは他の人と仲間になって、いいネットワークを作りましょうという意味です。

社会変革：私たちの一番大きな目的は、差別があるこの社会を変えることです。専門家たちやいつも手伝ってくれる人たちに頼るのではなく、自分たちが望む社会は自分たちの手で作りましょうというメッセージです。

ピアカンをする時、「人間の本質」である以下の5つを強く信じます。

人間の本質：
愛し愛されたい
創造性に溢れている。
知性に溢れている。
喜びに溢れている。
力強く、パワフルである。

医学モデルでは、障がい者は「もっとリハビリを頑張って、健常者みたいになってください」と専門家から言われます。しかし、それは難しいことなので、障がい者は自信を失くします。ピアカンでは、医学モデルの考え方はいりません。私たちは同じ経験をもっていますから、障がいのある仲間の気持ちを理解し、心の支援をもらったりあげたりすることができます。これは、社会モデルに向けた最初の一歩です。

手話

インドで手話通訳はとても少ないので、障がい種別を越えて一緒に活動することが難しいです。ですから、私は日本で少し手話も勉強しました。日本手話はまだ上手とは言えませんが、手話の基本的なルールを学びました。将来、国際手話とインド手話を学ぶ時、少し覚えやすくなると思います。

バリアフリー

多くの開発途上国にとって、バリアフリーは一番大きなチャレンジです。しかし、私たちは完璧なバリアフリー環境を見たことがないので、目標を具体的に定めることができません。誰かから聞いて作った「絵に描いたゴール」と言えます。日本での10ヵ月は毎日がバリアフリーチェックでした。今、私たち研修生は、自分の国の現状を理解し、将来のゴールとなるバリアフリーの基準を日本からもらいました。

4. 私の変化

自己受容

日本へ来る前、私は自分にあまり優しくなかったです。いつも頑張らなければならないと考え、自己批判をしていました。誰かに「あなたは可愛いですね」と言われても、侮辱的なコメントと感じました。なぜなら、可愛い女性は強いリーダーになれず、パワフルなリーダーシップをとれないというイメージを持っていたからです。でも今は違います。自己受容ができたことで、いつもパーフェクトな私じゃなくてもいいとわかりました。

フェミニストとしてのアイデンティティ

インドで男尊女卑と女性の問題をたくさんみてきたので、私がフェミニストになったのはいつなのか自分でも覚えていません。日本ではたくさんの女性リーダーに会って、女性障がい者の色々な会議に参加しました。

ダスキン研修には約300人の応募があります。私はその中から選んでもらった人です。大変な状況下で暮らすインドの女性障がい者のエンパワーメントのために活動するという私の責任はもっと強くなりました。

障がい学と国際学との融合

日本へ来る前、私は大学で国際関係学におけるロシアと中央アジアの関係について研究していました。特にロシアの経済と外交政策に興味をもっていました。しかし、日本で障がい学の研究者にたくさん会って、障がい学の大切さを学びました。今後は、障がい学と国際学を融合させて、1991年以降のソ連崩壊時代における障がい者の色々な問題について研究したいと考えています。その研究は、障がい者に関する私の理解をもっと深めてくれると思います。

5. これからの夢

この研修に参加したことで、いつか日本を訪問するという私の子供の時からの夢が叶いました。今、私には新しい夢があります。それは、インドの障がい者が自立生活をするという夢です。

そのための第一歩として、ピアカンに注力した活動を始めます。なぜなら、ピアカンは自信と自己受容を障がい者に与えてくれるからです。自己受容ができれば、障がい者の自立生活はちょっと楽になると思います。ピアカンと自立生活の仕事をしながら、研究も続けます。勉強することは、私の頭と心のための燃料と同じですからこれを止めることはできません。ロシアの障がい者についての研究は本当に役に立つと思います。

子どもの時、日本へ行くということ以外にも、私にはたくさんの夢がありました。例えば、テレビの英語番組を見て、英語が上手になりたいと願いました。そして今、私の大学の先生や英語で研究している仲間たちは私の英語の話し方や表現はヒンディー語より上手いと言ってくれます。他にもあります。私の生まれた場所では、女性はあまり勉強しませんが、子供のころの私は、たくさん勉強することを夢見ていました。今私はインドの一番大きくて有名な大学で国際関係を研究しています。このように私には子どもの頃からたくさん夢がありますが、実はもう一つ大きな夢があります。あまりにも大きな夢なので、周りの人にもあまり話していませんが、皆さんには私の夢をシェアしたいです。それは、「国連の事務総長になる」ことです。これは子どもの時からの夢でした。大人になった今、それがどれほど大きな挑戦なのか分かっています。でも、私は諦めません。きっと、国連史上初の女性事務総長になります！ 私は全ての夢は叶うという強い自信を持って、国に帰ります。

6. お礼の言葉

この10ヵ月は夢のように素晴らしい時間でした。ダスキン愛の輪基金の皆さま、日本障害者リハビリテーション協会の皆さま、そして、個別研修で受け入れてくださった全ての団体の皆さまに心から感謝しています。ありがとうございました。

個別研修日程・研修場所 Individual Training Schedule

2015年

1月13日（火）～21日（水）	特定非営利活動法人 自立生活センター東大和
2月2日（月）～2月13日（金）	特定非営利活動法人 DPI日本会議
2月16日（月）～20日（金）	ヒューマンケア協会
2月26日（木）～27日（金）	日本手話研修
3月2日（月）～4月4日（土）	特定非営利活動法人 自立生活夢宙センター
4月6日（月）～5月17日（日）	自立生活センターリングリング

※但し、4月27日（月）、28日（火）は除く

研修生へのメッセージ　Message to Trainee

わたしたちは「な・か・ま」

※愛称：モナさん

障がい当事者スタッフの自分史を中心に、障がい当事者の生きづらさの背景からエンパワメントしていく過程を柱に研修を行いました。また、重度障がい者が地域で堂々と自分らしく生きていく大切さと難しさ、人とつながり地域とつながることや仲間の大切さ、それぞれの居場所づくり、遊びも全て自立生活運動につながっていることを実感したにちがいありません。

モナさんは、聡明でやさしく、料理好きでおしゃれな女性でした。そして、真面目で勉強熱心でした。時々、言葉がかみあわなくて、分かるまで時間がかかったことや、頑固な一面もありましたね。そんなモナさんは、みんなからは「モナぴー」と呼ばれ、また他の人達にも「○○ぴー」と名付け、みんなと交流し、慕われていました。

まずは、母国で大学の先生になるという第一目標を目指してください。母国インドは日本に比べると環境も違い、制度もなく困難なことが多いかもしれませんが、まずは、インドの障がい者仲間に日本の研修で学んだことを伝え、同じ志を持った仲間を増やしていき、自立生活運動をあきらめずに活動してほしいです。もし、しんどくなったら、日本で出会った多くの仲間の顔をうかべ、心を強くし、「ひとりじゃない　仲間がいるから　強くも　優しくも　楽しくもできる」を胸に抱き、「国連事務総長になる」という大きな夢を追い続けてください。そして、一歩一歩進んでいってほしい。国は離れていても、わたしたちは「な・か・ま」です。

私達はちゃんとつながっています。最後に骨形ファイト！！

特定非営利活動法人 自立生活夢宙センター
代表　平下　耕三

研修生へのメッセージ　Message to Trainee

インドで仲間たちと社会を変えていってください

※愛称：モナさん

モナが来た日は大雨でした。駅の改札で初対面。満面の笑顔がとても力強かったのを覚えています。その直後に、駅を出るとなんと雨が止んでいて、モナは「晴れの人」のイメージで研修が始まりました。

モナは、聡明で、理解力に優れ、何事にも積極的でした。質問と議論が大好きで、疑問をはっきりと言葉にし、小さなことにもすぐ感動する率直さに、私たちも学ぶことが多かったです。さらに、手話を覚えることへの積極性と、スピードの速さは感動的ですらありました。研修期間は1ヵ月半しか無かったのですが、彼女は成果発表もすべて手話をつけて話し、交流会では他の人の手話通訳をするくらい上達したのですから驚きです。あくまでも彼女はピアカンの研修に来ていて、手話はその合間で勉強しただけです。「聴こえるピアカウンセラーが手話で話すこと」が、聴覚障がいを持つ仲間を歓迎するときに、とても大切だということを、彼女は直感したのだと思います。

一緒に遊ぶ時間もたくさんもちましたが、遊びながらも、女性への差別の話、ガンジーと政治の話など、社会的な話になっていくのが、さらに面白かったです。

インドに帰っても、その確かな人権意識を持ち続けて、仲間と共に、社会を変えていってほしいと思います。

自立生活センターリングリング
代表　中尾　悦子

どこでも、誰でも、障がいのある人も、ない人も皆さんの心は同じですよ

Dilshod NORMURODOV

ディルショッド・ノルムロドフ

ウズベキスタン（ナボイ）出身　23歳　肢体不自由（手動車いす）

研修希望内容

1. 他国での障がい者の生活
2. 日本の障がい者関連法、及び自国の法律の改善
3. コンピュータスキル

私の名前はDilshodです。ディルショッドとは、「いつも心は幸せな人」という意味です。この研修でウズベキスタンから招へいされた研修生は、私が初めてです。私は自分の障がいのことは詳しいですが、日本へ来て他の障がい者のことが全然分っていないことに気が付きました。重い障がい者が自由に外へ出かけている姿を見て、びっくりしました。なぜなら、私の国では見たことがなかったからです。障がい者が自由に生活できる社会はすばらしいと思いました。世界の全ての国がそうであれば、みんなが幸せになりますね。

日本で暮らした最初の5ヵ月間～楽しかったこと～

日本語のクラス

まず3ヵ月の研修では、生活でよく使う大事な日本語を勉強しました。先生たちはとても親切で、今でも先生たちから教えてもらった言葉を使って、毎日皆さんと話しています。先生たちは私たちからのたくさんの質問に、いつも頑張って答えてくれました。私は漢字が好きなので、研修の中で一番楽しかったのは日本語のクラスです。私たちの日本での生活にとって、先生たちは一番大事な人だと思います。本当に本当にどうもありがとうございました。

ホームステイ

ホームステイは3つの家族のところに行きました。神奈川県の太田さん、沖縄県の仲盛さんと宮城さんの家です。太田さんの家では、お母さんの誕生日をお祝いしました。お母さんは毎日とても美味しい料理を作ってくれました。沖縄の天気は良かったです。宮城さんと私は琉球の古い建物へ行って、沖縄の伝統的な服を着てたくさん写真を撮りました。

スキー

1月23から26日、皆さんと一緒にスキーをしました。私の国でも雪が降りますが、スキーは経験がありませんでした。まさか自分もスキーが出来るなんて思っていなかったので、びっくりしました。先生たちは「一緒に頑張れば、滑れるようになるよ」と言って、私たちを励ましてくれました。たくさん転びましたが、頑張ってスキーに挑戦しました。自分にも出来たので、とても嬉しかったです。

日本で暮らした最後の5ヵ月間～大事なこと～

その後の5ヵ月間は、自分にとってとても大事なことを勉強しました。それは自立生活センターのことです。それまで、日本で遊んだり、障がい者のスポーツを体験したりしたいと考えていました。しかし、個別研修で日本の自立生活センターについて知り、とても勉強になりました。

ここで、自立生活センターについて説明したいと思います。例えば、あなたが

全く動けない重い障がい者だとして、何か食べたい、どこかへ行きたい、誰かに会いたい、何かしたいと思いますが、一人ではそれが出来ません。どうしますか？その時に必要なのは、あなた自身が何を食べたいか、どこへ行って誰と何をしたいかを自分で決めて、自立生活センターにサポートを頼むことです。自立生活センターの人は、あなたの手と足です。あなたのしたいことを実現します。

最初に、STEPえどがわで自立生活センターのことを学びましたが、100%は理解できませんでした。その時の私は、遊ぶことやスポーツのことをまだ考えていました。沖縄でいくつかの自立生活センターに行って、新垣さんや長位さん、他のスタッフの皆さんから自立生活センターの活動を紹介してもらいました。

自立生活センターで取り組んでいる活動は、障がい者の生活やバリアフリーのこと、そして障がい者の問題を行政や学校の子供たちはもちろん、社会で暮らす多くの人たちに伝えることです。障がい者の問題を伝えるという活動は大切です。なぜなら、伝えることで、障がい者を知らない人々が少しずつ理解できるようになるからです。自分の国では、自立生活センターの存在を知っている人は誰もいません。どうすれば、私の国で自立生活センターが立ち上げられるか、私はたくさん考えるようになりました。

次に、メインストリーム協会へ行きました。障がい者の皆さんは、自分のしたいことが出来ていて、とても幸せそうでした。それを見て、障がい者の生活にお

いて、自立生活の考え方が一番大事ということが分かり、自分の国でも自立生活センターを作りたいという気持ちがもっと強くなりました。だから、いろいろな自立生活センターを見学して、皆さんがどんな活動をしているか、どんな問題があるかを聞いて、知識を増やすようにしました。

最後の研修はさいとう工房で、車いすの修理について学びました。車いすを使って、行きたい所へ自分で行けるようになることは、自立生活のコンセプトに繋がります。ですから、自分の国でさいとう工房と同じような会社を作りたいです。そうすれば、障がい者は車いすを使って行きたい所へ行くことが出来ますね。

研修で出会った皆さんからいっぱい色々なことを勉強したので、私はとても幸せです。

私の国の障がい者の問題

私の国の障がい者の問題は、色々なバリアがあること、自立生活を知っている人がいないこと、障がい者が働く機会がないことなど、たくさんあります。しかし、それを少しずつ解決していきたいです。一人で解決するのは難しいので、まずは仲間を作りたいです。そして、家族にも相談したいです。仲間を作るために、いろいろな人に日本で勉強したことを伝えたいです。同じ大学に通う障がいのある学生や法律に詳しい障がい者の友達の意見も聞きたいです。そして、仲間と一緒に、障がいのある人の情報を載せたホームページを作りたいです。その時は、障がいのある人もない人も、女の子も男の子も、全ての人のことを考えてホームページを作ります。ホームページを通して、障がい者のことを知ってもらい、障がいに関連するいろいろな活動を企画します。そして、仲間と一緒に障がい者の問題を解決していきます。具体的な計画はまだ決まっていませんが、皆さんから教えてもらった大事なことを使って頑張ります。

お世話になった皆さんへ

日本語と水泳とスキーの先生たち、日本障害者リハビリテーション協会の皆さん、個別研修でお世話になった皆さん、そしてダスキン愛の輪基金の皆さん、本当にどうもありがとうございました。皆さんの仕事はとても素晴らしいです。アジアの色々な国の障がい者が、日本でたくさんの大切なことが学べるようにサポートしているからです。私も日本でたくさんのことを学びました。国へ帰って、障がい者のために一生懸命に頑張ります。

大事なことは、「どこでも、誰でも、障がいのある人も、ない人も皆さんの心は同じですよ」。

個別研修日程・研修場所 Individual Training Schedule

2015年

1月13日（火）～21日（水）	特定非営利活動法人 自立生活センター STEPえどがわ
2月2日（月）～3月6日（金）	特定非営利活動法人 沖縄県自立生活センター・イルカ
3月10日（火）～5月8日（金）	特定非営利活動法人 メインストリーム協会
5月12日（火）～15日（金）	有限会社さいとう工房

研修生へのメッセージ Message to Trainee

ウズベキスタンの障がい者リーダーとして期待

沖縄のCILイルカやCIL希輝々での約1ヵ月の研修お疲れ様でした。自国に戻りどの様な生活を送っているのか気になるところです。難しい言葉や分からない事があると頻りに「これは何ですか？」と聞いたり、辞書で調べていたのが強く印象に残っています。

希輝々の研修がスタートした日に沖縄県の「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい社会作り条例」の行政向け研修で那覇空港からそのまま乗り継ぎで石垣島に一緒に行きましたが、また飛行機に乗るのですかとビックリしていましたね。

沖縄は島国という事もあり、離島と本島の行き来で、宮古島にも行き、伊良部大橋を車椅子で渡ったり、行政機関や福祉関係機関に、共生社会推進に係る相談委員等研修事業の行政向け研修の呼びかけや、小学校での福祉体験学習、いろんな事を経験したハードスケジュールな日々でしたが、共にエンパワメントできたと思います。

土日の休日になると、魚釣りやプロ野球の試合観戦、美ら海水族館に行き有意義に仲間たち等とパワフルに過ごせましたね。

約10ヵ月間日本の障がい者団体や福祉関係機関の方から学んだ事を自国のウズベキスタンの障がい者リーダーとして障がい福祉の発展の為にやっていける方だと信じ期待しています。

北部自立生活センター希輝々
代表　新垣　正樹

研修生へのメッセージ Message to Trainee

ウズベキスタンの仲間と頑張って！

初めてメインストリームに来た時はあまり日本語も上手くなくて正直コミュニケーションが取りにくかったです。毎日ひらさんとスケジュールのことや研修の事や遊びの事をうまくない日本語で一生懸命話してくれましたね。メインストリームでは、自立生活センターのことやＩＬＰ、ピアサポート、介助者のことを勉強したことを覚えていますか？

大阪城へ行ったり、京都へ行ったり、名古屋へ修学旅行に行ったり色々な所に遊びに行った事を忘れないでくださいね。

研修が終わりに近づくにつれてだんだん日本語も上手くなって最後の方にはディルちゃんの事が分かるようになってきました。最後のパーティーにはひらさんが入院してしまったので参加できなかったことごめんなさいね。パーティーを前にひらさんの病院にお見舞いに来てくれたことすごく嬉しかったですよ。

ディルちゃんに「なんでやねん！」て言われたことほんまになんでやねんと思いました。本当に研修お疲れ様でした。

ウズベキスタンに帰ってメインストリームで勉強したことを、障がい者の仲間と一緒に頑張って活動してください。機会があればウズベキスタンに行きたいな。

Biz sizga omad tilayman!!（私たちはあなたに最高の幸運が訪れることを願っています!!）

NPO法人 メインストリーム協会
平田　昌之

バングラデシュの障がい者のために成功への長い旅が始まります

Md. Habibur Rahman MOLLAH
ハビブラー・ラフマン・モラー

バングラデシュ（タンガイル）出身　30歳　肢体不自由（手動車いす）

研修希望内容

1. 日本の障がい者関連法、及び自国の法律との比較
2. 先進的なマネジメント
3. 障がい者組織と政府の協力
4. 日本の障がい者運動

1. 自己紹介

私はハビブラー・ラフマン・モラーです。バングラデシュから来ました。私の障がいはポリオです。子供の時から障がいがあります。私は30歳です。国で障がい者の団体でボランティアをしています。私の家族は11人で、みんな一緒に住んでいます。障がいがあるのは私だけです。

日本は私にとって初めての外国でした。1年前に結婚したので、奥さんに会えないのは寂しかったです。しかし、日本では楽しいことがたくさんありました。日本の食べ物や文化はおもしろかったし、いろいろな場所で遊ぶ機会もありました。地下鉄と新幹線に乗るのも初めてで、とても嬉しくなりました。バングラデシュのことを思い出して、寂しくなることもありましたが、日本も日本の人たちもとても楽しいです。

2. 日本語・ホームステイ・スキー研修

日本に来る前、日本語は全然分かりませんでした。日本で3ヵ月間、日本語の勉強をしましたが、日本語は難しいですから、時々心配でした。どうやって日本語を勉強すればいいのか分かりませんでしたし、平仮名とカタカナも書けませんでした。でも、先生たちは、とても親切ですから、だんだん日本語ができるようになりました。日本語を勉強している時、スイミングプールで水泳の研修もしました。とても楽しかったです。なぜなら、私はプールで泳ぐのが初めてだったからです。

私は、長野県で10日間のホームステイをしました。その時、日本の文化と食べ物、宗教や法律について勉強しました。長野に行く前、日本の文化や食べ物、そしてホストファミリーのことを考えて、私は心配していました。でも、家族はとても親切で、食べ物もおいしかったです。休みの日に、家族みんなで釣りに行ったり、神社に行ったり、面白かったです。

バングラデシュでは雪が降らないので、テレビでしか雪を見たことがありませんでした。日本で初めて本物の雪を見ました。スキー研修は、どうやってするのか分からなかったので、心配でした。最初はとてもドキドキしましたが、スキーの先生たちはとても優しかったです。私はバイスキーを使って滑りました。最後の日は、自分でバイスキーを操作しながら滑ることがでるようになりました。これは私にとって新しい経験になりました。

3. 集団研修と個別研修

集団研修では、障がい者のリーダーになるために、たくさん勉強をしました。例えば、障がい者の虐待や差別、法律や障がい者の運動、アジアの障がい者、聴覚障がい者、視覚障がい者、肢体障がい者についてです。他にも企画書作成について学びました。新しい知識をもらいましたから、集団研修はとても大切だと思います。研修生同士で自分の気持ちや将来の夢を話す機会もありました。

個別研修で、障がい者の問題、バリアフリー、障がい者の生活、日本の障がい者運動、障がい者の福祉や国からのサービスについて勉強しました。

自立生活センターでは、障がい者の自立生活について勉強しました。バングラデシュで障がい者の問題がたくさんありますから、個別研修は大切です。今、私は、日本の障がい者の生活が分かります。そして、障がい者の自立生活の方法が分かりました。

DPI日本会議で、障がい者の国際的なセミナーと法律について学びました。障がい者の国際的なネットワークが分かったので、私も将来、国際的なネットワークを作りたいと思いました。

自立生活センター星空で1ヵ月ぐらい勉強しました。星空の事務所は小さいですが、障がいのある人とない人が一緒に働いています。このことも大切な運動だと思いました。他にも、障がい者のリハビリについて教えてもらいました。大阪にある、自立生活センタームーブメントでは、電動車いすを使っている人たち40人くらいと一緒に街に出て、スーパーマーケットや駅などのバリアフリーチェックをしました。募金活動も経験することができました。

AJU自立の家では、障がい者の仕事について学んだり、車いすの修理を教えてもらったり、障がい者の運動の歴史について話してもらったりしました。AJUではアジアの障がいのある人たちにいろいろなサポートをしています。その方法についても教えてもらいました。AJUの研修の中で、一番印象に残っているのは、障がい者の合コンです。合コンはとても良かったです。参加していた障がいのある人には、嬉しい気持ちと悲しい気持ちのどちらもあります。もしOKがもらえなかったら悲しくなるし、OKだったら嬉しくなるからです。私の国にも恋愛や結婚のチャンスがない障がい者がたくさんいます。バングラデシュでも障がい者の合コンをやりたいです。

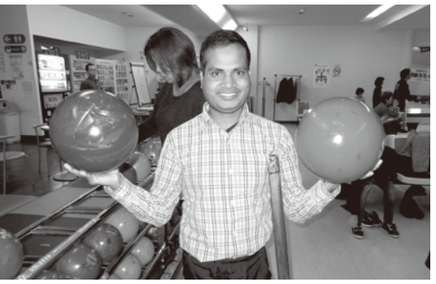
田野畑村にあるハックの家で、障がい者のメインストリーミングの勉強をしました。田野畑村の人口は、40年前は8,000人でしたが、今は全部で3,500人です。コミュニティの人が少なくなるのは、大きな問題です。でも、ハックの家では、障がいのある人、障がいのない者、おじいさん、おばあさん、難病の人など、いろいろな人が一緒に働いています。とても良いコミュニティだと思いました。

まとめ

ダスキンの研修はアジアの障がい者を大きな家族にしてくれます。私はダスキンファミリーのメンバーになれたことを嬉しく思います。アジアの障がいのある人がダスキン研修を受けて、いろいろな活動をしています。そして、アジアはだんだん障がい者にとって良い環境に変わってきました。

バングラデシュは小さいですが、賑やかな国です。人口の10パーセントぐらいの人に障がいがあります。バングラデシュの人は障がい者に親切ですが、問題はたくさんあります。1番の問題はバリアフリーじゃないことです。そして、障がい者をサポートする法律もあまりないですし、障がい者が就ける仕事も少ないです。障がい者の福祉制度もよくないです。私はNPOで障がい者のために働いて、これらの問題を解決したいです。バングラデシュのダスキン卒業生と一緒に、障がい者のために働きます。これから、私の長い旅が始まります。

ダスキン愛の輪基金の皆さん、日本障害者リハビリテーション協会の皆さん、お世話になった皆さんに心からお礼を言いたいです。ありがとうございました。



個別研修日程・研修場所 Individual Training Schedule

2015年

1月13日(火)～21日(水)	つくば自立生活センター ほにゃら
2月2日(月)～6日(金)	特定非営利活動法人DPI日本会議
2月10日(火)～3月6日(金)	自立生活センター星空
3月9日(月)～4月11日(土)	特定非営利活動法人ムーブメント
4月12日(日)～4月24日(金)	社会福祉法人 AJU自立の家
5月9日(土)～5月14日(木)	特定非営利活動法人 ハックの家

研修生へのメッセージ Message to Trainee

ハビブラー・ラフマン・モラー(愛称:ミジャン)との思い出

3月9日～4月11日までの1ヵ月間、「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」への協力の一環として、バングラデシュ出身の研修生、ミジャンの受け入れを行いました。スタッフ一同、心を躍らせながらその日を迎えました。

到着当日は、大阪らしくお好み焼きをみんなで焼き歓迎会を行いました。ただ、宗教上、豚肉は食べられないらしく、他の具材で対応したものの、甘いソースが口に合わない様子でした。みんなとの食事はコミュニケーションが良好に図れる絶好の機会であるだけに、お互いに苦労したところでした。母国で3食すべて超激辛のカレーを食べているミジャンにとって、日本食は未開な食べ物に見えたのではないでしょうか。そのような環境でも1年間、ミジャンは頑張ったと思います。

研修に関しては、ミジャンが自分で設立したDPOを通じ「バリアフリーな社会を作るための活動」や「障がい者関連法を改善するための試み」等を推進していきたいという目標を持っているため、滞在期間中、とても真面目に取り組んでいました。そういった彼との交流は、受け入れ側である私たちに良い刺激になったと思います。

母国に帰ってもその真面目さで自分の思いを実現させてほしいと思っています。

NPO法人ムーブメント
代表　渕上　賢治

研修生へのメッセージ Message to Trainee

一緒にアジアの福祉のために頑張りましょう

※愛称:ミジャンさん

ミジャンが来日して1ヵ月過ぎたばかりのころ、名古屋シティハンディマラソンで会ったのが初めての出会いでした。

ミジャンのかたい表情をみて、10ヵ月間元気にやっていけるのだろうか、と心配に思ったのが最初の印象です。数ヵ月後、さまざまな研修を経て、AJU自立の家へやってきました。少し控えめなミジャンは、やはり少々ホームシックにかかっている様子でした。

今後、前向きに活動していけるのかな、と心配していましたが、そんな不安を吹き飛ばした出来事がありました。それは「車いすが必要な人がいたら、バングラデシュに持って帰らないか？」と話をした時です。いつもは時間をかけて慎重に受け答えをするミジャンが瞬時に「持って帰りたい！私のためじゃない。バングラデシュには車いすが必要な友達がいる」と翌日には仲間のリストを作って渡してくれました。彼の決意は固く、自分の荷物を後回しにして無事に5台の車いすを日本から母国へ運びました。研修中はひとりで考えることが多かったかもしれません。母国ではたくさんの仲間がいます。自分の利益より仲間のことを大切に思う気持ちを大切に、これからも仲間と一緒に仲間のために、一緒にアジアの福祉をよくしていきましょう！

社会福祉法人 AJU自立の家
小出　奈津子

日本で研修したことを活かして ラオスの視覚障がい者に 新しい希望を

Viliya CHANCHALEUN

ヴィリヤ・チャンチャルン

ラオス(ヴィエンチャン)出身　27歳　視覚障がい(弱視)

研修希望内容
1. 障がい者の教育
2. 障がい者雇用
3. 障がい者の心理学
4. 障がい者のスポーツ指導

1. 日本での10ヵ月の研修で経験したさまざまなこと

日本での私の研修には、3つ大きいテーマがありました。まずは、日本語の研修です。日本に居る期間のほとんどは、日本語を使わなければならないので、日本語の研修は基本であり、研修にとって重要な要素でした。日本語は外国語の中でも好きな言葉だったので、勉強できることになって非常に嬉しかったです。途中で、点字をあまり使い慣れなかったりしたため問題にも直面しましたが、とても良い経験でした。

第二に、日本での多くの体験の一つとして、日本人のご家族と生活を共にするホームステイ研修がありました。ホームステイでは、日本の文化や生活様式を学び、自国と比較して似ている点、違う点を確認することができました。

最後に、研修の重要な柱でもある個別研修がありました。個別研修では多くの新しいことを学んだので、学んだことをラオスに持ち帰り、ラオスの視覚障がい者の生活向上のために応用したいと思っています。また、私が学んだ全ては、ラオスの視覚障がい者にとって希望にもなるものです。

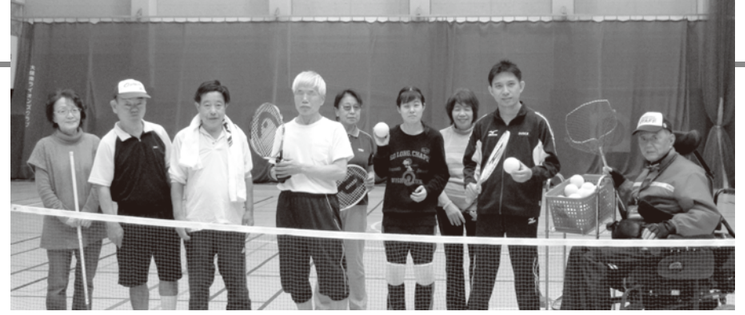
2. 日本における研修と学び

日本に来る前、私は視覚障がい者に関する新しい動向、中でも教育や就労のシステムについて知りたいという強い意欲を持っていました。実際に日本に着いてからは、多くのことを知り、学んだことで、ラオスの視覚障がい者の生活向上のためにもっと貢献したいという強い気持ちが湧き上がりました。バリアフリーの考え方や、障がい者のための様々な装置についても学びました。たとえば公共の交通機関では、電車の中で音声を流し、どの駅か、どのへんにいるかを視覚障がい者が分かるようになっています。このおかげで、個別研修の間も一人であちこちへ出かけることができました。

また、日本では、視覚障がい者、中でも大学生や会社員が、スクリーンリーダー、拡大読書機、点字ディスプレイなど大変高度な技術を用いたツールを仕事に使っているのを見学しました。ラオスでは、ラオ語のスクリーンリーダーすらなく、厳しい状況です。教育と就労に関する以外にも、日本ではDAISYの製作や、障がい者のスポーツについても学びました。研修で学んだことについては、以下にまとめました。

教育制度

日本には、視覚障がい者のための学校やインクルーシブ教育のための学校があり、この点はラオスに似ています。しかし、日本では点字図書やDAISY図書が学校にあるところがラオスより優れており、視覚障がい者用に点字図書やDAISY図書を擁する図書館も多いので、視覚障がい者は授業中に点字教科書もDAISY図書も利用可能です。ラオスの特殊学校には点字図書がありません。また、DAISYを製作する人もいないので、視覚障がい者の情報アクセスの障壁となってしまっています。



就労

日本では、視覚障がい者を雇用している職場を見学しました。そこでは、視覚障がい者はPCの読み上げツールや点字ディスプレイを使って、健常者と一緒に仕事をしていました。このような仕組みが整っているので、日本では視覚障がい者の就労のチャンスがラオスより多いのです。

DAISYの製作

DAISY図書とは、視覚障がい者のためのデジタル録音図書のことです。私は個別研修の際に、ATDOでDAISY図書の製作方法を初めて学びました。視覚障がい者はデジタル録音図書があれば、情報を「聴いて」理解することができるので、DAISYは非常に重要であると思いました。それだけでなく、DAISY図書は他のところに持っていくのも簡単です。今、日本ではDAISYのユーザー数が増えています。しかし、ラオスの特殊学校には、視覚障がい者にとって日々の重要な学習用資料となるDAISY図書を製作する施設がありません。

障がい者のスポーツ

ADDPでの研修期間中は、障がい者スポーツ、中でも視覚障がい者を対象にしたゴールボールを見学しました。日本代表チームの合宿に参加させていただき、ラオスのチームにも応用できると思われるルールやテクニックを学びました。また、大分県の「太陽の家」では車いすバスケットボールも見学しました。ここでは、スポーツと仕事が同じ場所で行なわれていました。日本の他地域のパイオニアともいえる取り組みでした。

私個人の成長

日本で暮らすことで、多くのことを学び体験しましたが、とくに一人で生活することを学びました。ラオスにいたときは、家族を始め、いつも誰かの手を借りていました。しかし日本では自分の面倒を自分で見なければならず、それによって自信がつくとともに、自分で問題解決する心構えが養われました。私の人生にとって、とても良い経験だったと言えます。また、他の研修生と折り合いをつけながら支え合って暮らすこと、また、自国とは違う社会で暮らすことについても学びました。

帰国後のプラン

帰国したらまずしたいこととしては、12月にシンガポールのASEANパラゲームに参加することが決まっているので、視覚障がい者のスポーツチームで練習を重ねたいと思っています。また、特殊学校の図書館を一新し、DAISY製作室にしたいと考えています。現在はDAISY図書のための場所が特にないので、これが実現すればラオスでDAISY図書を推進する大きな手掛かりになり、視覚障がい者の学生にとっても大きな希望そしてチャンスとなると思います。さらに、ラオスでは大学の経営者たちに視覚障がい者を教える経験が足りないからという理由で視覚障がい者の学生が大学に進学できない状態なので、日本で得た知識と経験を政府レベルで訴えていきたいと考えています。そして、日本で経験したさまざまな状況を、ラオスでも実現していきたいと思っています。

感謝の言葉

ダスキン愛の輪基金の皆さん、日本障害者リハビリテーション協会の皆さん、先生方、ホストファミリーの皆さん、ボランティアの皆さんほか、私の研修と日本での滞在中にお世話になった皆さんに、心から御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

個別研修日程・研修場所 Individual Training Schedule

2015年

1月13日(火)～1月15日(水)、 2月2日(月)～6日(金) ※4日(水)休み 2月19日(木)～20日(金)	有限会社 アットイーズ
1月16日(木)～1月21日(木)、 2月9日(月)～13日(金)、 16日(月)～17日(火)、 2月23日(月)～27日(金)	特定非営利活動法人 支援技術開発機構
3月3日(火)～28日(土)	社会福祉法人 日本ライトハウス
4月1日(水)～4月3日(金)、 4月25日(土)、 5月6日～6月13日(土)	特定非営利活動法人 アジアの障害者活動を支援する会
4月7日(火)～4月14日(火)	ギター(演奏法の習得)

研修生へのメッセージ Message to Trainee

ラオスで障がい者スポーツ指導者として がんばってください！

※愛称：チゴンさん

縁あって、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業第16期の研修生であるチゴンさんを、ADDPで3週間受け入れをさせていただきました。後半の2週間はラオス教育スポーツ省からの政府役人との合同研修でした。障がい者スポーツを担当する政府役人にとっても、チゴンさんと行動を共にすることで、障がい者のニーズやダイレクトな視点も、彼らがチゴンさんを通じて多くのことを学ぶことができました。チゴンさんと担当政府役人との連携も今後はしっかりと図られていくことが期待されます。

チゴンさんは、勤務する国立医療リハビリテーションセンターで盲学校の教師として頑張っています。盲学校には6歳の生徒さんから20歳過ぎの生徒さんまで10数人が寄宿生活を送っていて、チゴンさんはその生徒から一身に頼られている良き先生です。

そしてゴールボールを始めとした障がい者スポーツの指導者候補生として、今、新たな希望に燃えています！ラオスでは、障がい種別の中で、仲間達が一番団結し、そしてリーダーが着実に育っているのが、視覚障がい当事者です。スポーツでも、盲学校の生徒たち10代が主力選手のゴールボール女子チームが2年前のミャンマーのアセアンパラゲームで銀メダルを取りました。

「ゴールボールで視覚障がい者が元気になります。皆が気軽に相談できる視覚障がい者のコーチとして、僕がチームを率いていこうと思います！」。熱い思いで語っていました。

明るく、楽しく、そして優秀で、思慮深いチゴンさん。

これからも、困難に負けず、リーダーとしてラオスの視覚障がい者のために、どんどん道を切り開いてくださいね。ADDPはいつもいつでもチゴンさんを応援し、ラオスで伴走していきますよ！GO!GO!チゴンさん！GO!GO!ラオス・ゴールボールチーム！

NPO法人 アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)
事務局長　中村　由希

研修生へのメッセージ Message to Trainee

ラオスの視覚障がい者のために頑張ってください

※愛称：チゴンさん

「DAISY研修は2週間しかなくて、覚えられるか心配だ。」と当初はよく話していましたが、研修が進むにつれて次第に聞かなくなりました。事務所で研修が終わった後も自宅で繰り返し練習したり、週末に自習することで技術や知識を着実に自分のものにし、少しずつ自信を得ていました。

事務所までの道もすぐに覚えていましたね。最初はチキンばかりだったランチも、次第に様々なものを食べて食事も楽しんでいました。みんなで食べたざるそばもおいしかったです。事務所の近くの川沿いでのお花見は、暖かい日差しの中桜の花びらが散る様子がとてもきれいで、楽しかったですね。

視覚障がいの学生を教えているチゴンさんは、明確な目標を持っており、研修に対する姿勢や意識は高く非常に尊敬できるものでした。帰国したらすぐに教科書・教材をDAISY化しラオスの視覚障がい者の学習環境を改善していけると思います。ベトナムやタイの仲間とも連携していけると良いですね。

他にも楽器演奏やスポーツなど様々な分野で活躍すると確信してます。真面目で着実に物事を進めていく持ち味を活かし、日本で経験したこと・学んだことをこれからの活動に活かしてください。応援しています！

特定非営利活動法人
支援技術開発機構(ATDO)一同

公益財団法人　ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13
TEL：06-6821-5270　FAX：06-6821-5271

http://www.ainowa.jp/

909-600-15.11